

感染症の登園基準一覧表

保育施設は、乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。

登園に関しては、以下の配慮をお願いします。

- ①施設内での感染症の集団発生や流行につながらないこと
- ②子どもの健康状態が集団生活に適応できる状態に回復していること

1. 医師による「登園許可証」が必要な感染症

病名	感染しやすい時期	初期症状	登園の目安
麻疹 (はしか)	発症 1 日前から発疹出現後の 4 日後	38 度前後の発熱・ ほほの内側に斑点 (コプリック斑) 全身の発疹	解熱後 3 日を経過してから
インフルエンザ	症状がある期間 (発症前 24 時間から発病後 3 日程度までが最も感染力が強い)	発熱・全身倦怠感・ 筋肉痛・頭痛	発症した後 5 日を経過し、かつ、解熱した後 3 日を経過してから
風疹 (三日はしか)	発疹出現の 7 日前から 7 日後くらい	発熱・発疹・リンパ 節腫脹	発疹が消失してから
水痘 (みずぼうそう)	発疹出現後 1~2 日から痂皮形成まで	発熱・紅斑→丘疹 →水疱→痂皮	すべての発疹が痂皮(かさぶた)化してから
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	発症 3 日前から 耳下腺腫脹後 4 日	発熱・耳下腺腫脹	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹が発現してから 5 日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
結核		咳・痰	医師により感染の恐れがないと認めるまで
咽頭結膜熱 (プール熱)	発熱、目の充血等の 症状が出現した数日間	発熱・咽頭炎・結膜 炎	主な症状が消え 2 日経過してから
流行性角結膜熱 (はやり目)	目の充血、目やに等 症状が出現した数日間	結膜充血・目やに・ 圧痛	感染力が非常に強いため結膜炎の症状が消失してから
百日咳	抗菌薬を服薬しない 場合、咳出現後 3 週間 を経過するまで	風邪症状から始まる 長期の咳	特有の咳が消失するまで、又は 5 日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
腸管出血性 大腸菌感染症 (O157, O111, O26 等)		激しい腹痛・ 水様便・血便	症状が治まり、かつ、抗菌薬による治療が終了し、48 時間あけて連続 2 回の検便によって、いずれも便から菌が検出されないと確認されるまで
急性出血性 結膜炎		目の痛み・異物感・ 羞明(まぶしい)・ 結膜下出血・発熱	医師により感染の恐れがないと認められるまで
髄膜炎菌性 髄膜炎		発熱・頭痛・首の硬 直・けいれん	医師により感染の恐れがないと認められるまで
新型コロナウイルス感染症	発症 2 日前から発症 後 5 日間程度	発熱・頭痛・咽頭痛・ 呼吸器症状・倦怠感など	発症した後 5 日間を経過し、かつ、症状が軽快した後 1 日を経過するまで

2. 医師の診断を受け、保護者が記入する「登園届」が必要な感染症 (登園時の状態によっては、引き続き自宅療養をお願いすることがあります)

病名	感染しやすい時期	初期症状	登園の目安
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後 1 日間	発熱・咽頭痛・全身に 発疹	抗菌薬内服後 24~48 時間経過していること
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱・乾いた咳→湿った 咳→激しい咳	発熱や激しい咳が治まっていること
手足口病	手足や口腔内に水疱・ 潰瘍が発症した数日間	風邪症状・手足・肘・ お尻に水疱	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
伝染性紅斑 (リンゴ病)	発疹出現前の 1 週間	ほほの紅斑・手足の紅 斑	全身状態が良いこと
ウイルス性胃腸炎 感染性胃腸炎 (おなかにくる 風邪)	症状のある間と、症状 消失後 1 週間(量は減少 しているが数週間ウ イルスを排出している ので注意が必要)	発熱・嘔気・嘔吐・下 痢	嘔吐、下痢等の症状が治まり、普段の食事がとれること <u>*おなかの風邪と診断された場合も 同様の対応をお願いします。</u>
ヘルパンギーナ	急性期の数日間(便の 中に 1 カ月程度ウイ ルスを排出しているので 注意が必要)	発熱・咽頭痛・咽頭に 水疱	発熱がなく、口腔内の水疱・潰瘍の影響がなく、普段の食事がとれること
RS ウイルス 感染症	呼吸器症状のある間	風邪症状・呼吸困難・ 喘鳴	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
ヒトメタニューモウイルス感染症	呼吸器症状のある間	風邪症状・呼吸困難・ 喘鳴	呼吸器症状が消失し、全身状態が良いこと
帯状疱疹	水疱を形成している間		全ての発疹が痂皮(かさぶた)化していること
突発性発疹		高熱・3~4 日後に解熱 と共に発疹	解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと

3. 場合によっては医師の診断や治療が必要な感染症 (登園届は必要ありませんが、園生活上での注意点があります)

病名	感染しやすい時期	初期症状	登園の目安
伝染性膿痂疹 (とびひ)	水疱、びらんがある間	鼻周囲・体幹・四肢の 水疱、びらん	感染の恐れがないと認めるまで(確実にガーゼで覆い、接触感染を防ぐこと)、患部が広範囲な場合や、ガーゼ等で覆うことが困難である場合は自宅療養をお願いします
伝染性軟属腫 (水いぼ)		粟粒大から小豆大の 小さいいぼ	合併症がなければ登園可能
頭ジラミ症	成虫がいるとき	頭髮に虫卵が付着、 頭のかゆみ	駆除に努めながら登園可能